

今回の東大見学会企業大学訪問を通して、将来に向けて自分は今何をすべきなのか改めて見つめ直すことができました。

私が今回特に学ぶことが多かったと感じたのは、1日目の企業大学訪問です。

ディレクトフォースでは新日鐵住金に訪問しました。新日鐵住金は素材メーカー、鉄鋼メーカーと呼ばれ、生産の規模は日々拡大しており、グローバル展開が進んでいる会社の1つです。その新日鐵住金本社は、様々な部に分かれていて、国内外の自動車・部品メーカーに自動車用鋼管を届けるための「パイプ営業」、契約交渉や、プロジェクト支援、トラブル防止・解決を行う「法務」、技術職の役割を主に担う「技術」戦略的広報活動、報道対応、出版物の企画・制作、会社認知度の向上運動を行う「広報・CSR」などがあります。部の方の話を聞き、それぞれ違う部に所属していると、仕事のポイントや楽しさは違うのだと実感しました。また、二高の卒業生の先輩の話を聞くことが出来、自分の高校生活の良い参考になりました。

その後、私達は会社説明の後にグループで自分が今頑張っていることを発表し、それが将来どう生かされるのか、また将来に役立てるためにはどのように工夫すれば良いか、話合いました。私達の班では、部活での取り組みが中心に発表されました。部活の中で皆様々なことを意識していました。例えば、目標に向かって毎日地道に努力することを怠らない、現状でとどまらずに新しいことに取り組むようにする。自分の意見は相手が先輩でも、しっかりと伝える、など様々な取り組みが挙げられました。私達のグループは国際関係の仕事を考えている人が集まっていたため、そこから、外交関係の職に就いた際に気をつけるべきことに焦点を当てました。その結果として日本人は、「暗黙の了解」や「空気を読む」といった言葉があるように、自分の意見を真っ直ぐに単刀直入で言うことが出来ていない人が多く、外交の面では大きな弱点となっている、という現状が明らかになりました。そのため、高校生である今から、人と話す時は人の話に耳を傾けつつも自分の意見を遠慮せずに言い、相手に伝えること、人の目を見て話すこと、また意思表示をはっきりすることが大切だ、ということにまとめました。話し合い全体を通して、私達の班はしっかりと話し合いの結果がまとめましたが、実際は、全員発言しておらず、積極的な姿勢があまり見受けられなかったため、これからの反省にしたいと思います。個人としては、進んで発言したり、自ら書記を引き受けることが出来たため、次の機会には話し合い全体に目を向けてもっと盛り上がる話し合いに出来るように尽力したいと思います。

また、企業の方の話を聞いて学んだことはいくつかあります。高校時代には将来の焦点を絞り過ぎずに勉強し、大学に入学してからは先生にしっかりついて行き、先生の元で必死に勉強するべきであるということ、また英語は英会話は自然も身に付くため、英会話より読み書きを重点的に勉強した方が良いということ、などこれからの学校生活で生かしていくことが出来ることをたくさん教えていただきました。

午後には私達の班は中国大使館に訪問しました。まず始めに、対応にあたってくれた友好交流部の方が大変温かく迎えてくださったことが印象的でした。

中国大使館は 11000 m<sup>2</sup>の敷地があり、8階建て地下2階まであります。1階には大宴会場、中宴会場、映画ホールがあり、主に見学に来た生徒や友好交流団体の接待にあたる場所になっています。2階は職員専用の階になっています。また、敷地内にはプールやテニスコートも設置されており、大使館員の方が体を鍛えるために使用したり、連日は大会も行われていて多くの人を訪れます。芝生が敷かれている広い庭には各地方の日中友好団体から送られて来た木が植えてあり、「日中友好の証」と記された石碑が立っています。

大使館内の紹介の後に質問に答えて頂くことが出来たため、それをまとめたいと思います。

Q 国際社会に出る上で必要なことは何か？

A 日本の社会のマナーをしっかりと知った上で相手の国の文化やマナーを知るべきである。

Q 中国大使館職員になった理由は？

A 日中友好のため。お互いの国を尊重するため。

Q 大使館職員の特権は何かあるか？

A 特にない。大使館職員も日本にいる限り日本の法律を守らなければならない。また、大使館職員になる際に公約を発表する必要がある。

Q 大使館の敷地内は中国の法律は適用されるのか？

A 中国の法律は適用される。しかし、日本の領土内でもあるため、日本の法律も守らなければならない。

Q 日中関係を良好に保つための具体的な取り組みは何か？

A 沢山ある。今年の4月には3000人の訪中団が中国を訪れた。また、小大使と呼ばれる高校生、60人が交流を行っているそうだ。

Q 中国から見て日本はどのような国か？

A 経済発展が進んでいて、平和を愛する人が多い国。しかし、平和を愛していない人も一部はいるように見える。

Q 日本に来てから改めて中国を見ると、中国に対する印象は変わったか。

A 以前よりも全面的に中国を見ることができるようになった。急速に経済発展しているが、その一方でPM2.5などの解決しなければならない環境問題も沢山ある。

Q 日本と中国が繋がることによるメリットは？

A 経済発展、文化交流など多くの良さがある。昔から遣唐使、遣隋使、鑑真など交流が続いている。

Q 外国と交流する際に気をつけていることは？

A 相手国の法律に従うこと。また、相手国の民族を尊重して接すること。

この他にも、相手国を一番速く理解する手段はその国の美食を食べることだと教えて頂きました。

中国大使館を訪問したことで、日本以外の外国を良く理解するためには様々な工夫や取り組みが必要だと実感しました。また、相手の国を尊重し、交流することが大切だと学びました。そして、今まで以上に中国のことを理解することが出来、興味も湧いて来ました。本当に貴重な体験が出来ました。

今回の企業大学訪問は当日の準備段階から自分の力が試されていたような気がします。訪問行き先を決め、自分達だけで企業に連絡し、アポイントメントをとる。これはとても大変な作業でした。私達はありがたいことに中国大使館のアポイントメントはすぐにとることが出来ましたが、希望していたもう一つの企業にはなかなか連絡がつかず、何度も電話をかけました。今振り返ると、アポイントメントを断られるのは辛いことでしたが、自分のレベルと経験値アップに繋がり、良かったと思っています。

また、新日鐵住金での体験は社会人になって、実際に自分が自分の力だけで生きていくことになったら、生きてくると思います。自分の力だけで生きている人はどのような考えを持ち、どのような工夫・知恵を備えているのか。いざ自分の番が回ってきたら、すぐには今回の経験を活かすことは難しいとは思いますが。でも少しずつ、体で感じたものを役立てていけるようにしっかりと頭の中に記憶しておきたいと思えます。

また、今は競争が激しい時代で海外を相手に仕事をする人が多いと思えます。今までの生活の中で外国の人と面と向かって、将来のことや国際関係の話をしたのは今回が初めてだった上に、大使館という場所に足を踏み入れることが出来たのは私の人生の中で最初で最後かもしれません。だから、今回の貴重な経験を忘れずに、将来の自分の理想像を叶えるために頑張っていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回の研修が出来たのは、たくさんの労力と時間を掛けて計画を練ってくださった先生方、また訪問に協力してくださった新日鐵住金の方々、中国大使館の方々のおかげです。本当に心から感謝しています。ありがとうございました。



